

Social Coordination Letter



ごあいさつ

「人とのつながりを創り出す行動力」

コロナで辛かった3年間、私たちに希望を齎したのは「人の力」だった。

人が人を支える、人と人がつながる、やはり「人」のあたたかさが嬉しい。

私たち社会教育課程は、地域をキャンパスにして、世代や国籍を越えた様々な「人」との出会いと経験を重ねていく。専門職「社会教育士(称号)」は、ソーシャル・コーディネーターを目指す。それは、地域・社会の中で、人と人の「かかわり」や「つながり」をつくる仲介者。地域にある宝(社会資源)を見つけ、多世代が互いに協力し合える関係性を築き、様々な「学び」や「活動」プロセスを創出する「ひとづくり」と「まちづくり」のプロパー。

それは、どんな職業能力なのだろうか。「多様な他者をつなぐ」「ファシリテーターとして」「プロジェクト創出とマネジメント」3つの職能チームに分かれ、クドバス手法で自己評価軸を作成した。社会で活躍する専門家にも出会い、キャリアと夢の一步をつかんだ。その場には、学生自らが「人とのつながりを創り出そう」という強い意志と行動力が迸っていた。

きっと「行動することで得る幸せは、想像上のものでも、想像できるものでもけっしてない。それは実質以上のなにものでもないのだから」に違いない(『アラン幸福論』120頁)。

神奈川大学 資格教育課程センター (社会教育課程)

人間科学部人間科学科

教授 齊藤 ゆか

森の中で仲間づくり

開催日時: 2023年10月14日(土) 10:00~16:30

場 所: 小田原市いこいの森

参加人数: 履修者6名(法学部2名・人間科学部4名)

担当教員: 磯田浩司 非常勤講師

目 的

社会教育を学ぶための第1歩となる、仲間づくりを目的とした実習です。今回は、チームビルディングを自ら体験しながら、その手法を学びます。

場 所

小田原市いこいの森

〒250-0055 小田原市久野4294-1

日 程・1日の動き



10:00~11:00 アイスブレイク

11:00~12:00 説明を聞きながら森を散策

12:00~13:00 昼食

13:00~15:30 説明およびワーク

紙芝居形式での森の役割や林業についての説明

手のこを使ったスギとヒノキの伐採

15:30~16:00 振り返り

アイスブレイク後、佐藤さんの案内で、森の中を散策しながら、数えきれないほどの森の不思議を教えてくださいました。そしてこの日は、前日に3頭のイノシシを捕獲したということで、山の奥の解体場で、解体作業が行われており、その様子も特別に見せていただくことができました。

森に入る前には、森林の役目や、守ることの大切さを学びました。森は、人間が暮らすために多くの役割を担っています。木が育ち、森が健全

に役割を果たすためには、増えすぎた木を適切な量にする間伐作業を行わなければなりません。しかし、現在は山の管理をする人や林業を生業とする人が減り、間伐作業が大変になっています。小田原市森林組合では、4,200haを越える面積を占める小田原の森林を管理しています。

いよいよ森に入り、手のこを使って、スギとヒノキを1本ずつ伐る作業を行いました。1時間ほど伐っていると、メリメリと音をたてて倒れていきました。人の生活のためにその命を失っていく木や猪に感謝を表すためには、最後まで使い切ること、食してあげること、が大切ということです。そして最後に、人々が木を使ってくれるようになるためにはどうしたら良いか、森を守る林業に興味を持ってもらうためにはどうしたら良いか、話し合いました。

1日と一緒に過ごし、木の伐採作業を仲間と力を合わせて行うことで絆を深めました。

連携・協力

○ 小田原市森林組合 佐藤健氏



実践報告2023

〈YC:地域デザイン演習Ⅰ(履修目安学年:1年後期・2年)〉

横浜フィールドワーク

開催日時: 2023年10月30日(月)16:00~17:00・11月18日(土)10:00~16:00

場 所: 横浜市役所及び横浜市内

参加人数: 履修者6名(法学部2名・人間科学部4名)

担当教員: 高城芳之 非常勤講師

目 的

- ① 横浜市役所を訪問し、公共における生涯学習・社会教育に関連する仕事を知る。
- ② 民間における生涯学習・社会教育に関連する施設を視察し、実際の仕事を知る。

場 所

目的① 横浜市役所

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10

目的② ことぶき協働スペース

〒231-0026 横浜市中区寿町4-14 健康福祉交流センター2階

目的② ヨコハマ hostel ビレッジ

〒231-0025 横浜市中区松影町3丁目11-2 1階



横浜の夜景はステキですね！

日 程

- ① 2023年10月30日 16:00~17:00

横浜市役所内見学及び、横浜市の生涯学習施策についての講義。

- ② 2023年11月18日 10:00~16:00

ことぶき協働スペースにて、横浜市寿町の歴史と現状、活動内容を学ぶ。寿町をめぐり、ヨコハマ hostel ビレッジを見学し、民間による寿町の街づくりを学ぶ。最後に、横浜のまちを歩き、学びを深める。



14階の会議室

連携・協力

○横浜市教育委員会 生涯学習文化財課

係長 平中文朗氏、岩田仁希氏、鈴木薫氏、

○横浜市ことぶき協働スペース 施設長 徳永緑氏

○コトラボ合同会社 齊藤一樹氏

参加学生のコメント

【横浜市役所振り返りより】

・市役所より区役所の方がなじみがあつたが、駅から直通で驚いたし、市民に役立つ情報もあつて、もっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

・市役所自体が、観光地みたいな感じになっていた。指針に人材発掘が重要と書かれていたが、抽象的だと思った。区に任せて、市はまとめていてだけという感じがあつた。

・市役所に役所以外のたくさんの機能があり、人が集まりやすい施設だと思った。市役所の中でもいろんなことをやっていると知つたが、役所に行かないと分からなかつた。情報伝達に課題があるのではないかなと思う。



神奈川県庁

10/14 森林実習コメント

○今日は、人生で初めて木の伐採をしました。私は、山や自然がとても好きなので、実習がとても楽しみだったし、実際に体験してみても刺激を受けました。伐採の前に山の散策をして、様々な種類の木や植物について学ぶことができ、楽しみながら知識も得られてよかったです。いつもは講義を受けているだけだったので、ほかの学生は名前を知る程度だったけど、山での実習や川で遊んだりして交流ができたので、前よりは話すことができうれしかったです。地元は自然が多かったので、なつかしい気持ちになりました。授業を通して、ふつうはできない経験ができたので、とても良い経験になりました。1日ずっと楽しかったです。(自治行政学科1年 O.R)

○森の中を歩きながら、木の実や葉などに触れるという経験が、非日常なものであったため、非常に楽しく行うことができた。その中でも木を切るということを初めて行うことができ、印象的だった。その方向にどんな目的をもって、また、その方向に傾かせるために刃をどの方向に入れるのか、色々と考えながら切っていることを知った。林業は、人手が足りなくなりつつあるといわれている業界ではあるが、森や木を守ることで災害などから守ることができるといった、私たちが日々安心安全に暮らすうえで必要な仕事であり、この達成感ややりがい、より多くの人に広がってほしいと考えた。

(法律学科4年 T.E)

【小田原市森林組合 佐藤氏】

この度は授業の内容に小田原の山や林業を取り入れていただきありがとうございます。初めは表情がカタかったように思いましたが、五感で



佐藤さん（左）と磯野さん（右）

森林を感じていくにつれ、表情が豊かになっていき、学んでくれているのだと感じました。今回の非日常の体験をこれからの人生の何かに役立てていただければありがたいです。

【林業従事者 磯野氏】

この度は授業に参加させていただきありがとうございました。あの楽しい雰囲気の中での授業をしていると学生の頃に戻った気分になり、とても懐かしく楽しく感じました。楽しい雰囲気を作ってくださった先生方には感謝しております。最初のアイスブレイクもめちゃくちゃ楽しかったです！

11/18 横浜まち歩きコメント



寿町は歴史あるものと新しいものが融合していました

○横浜に住んでいるが、寿町には初めて行った。中華街やみなとみらいなど、観光施設として栄えている町が近くにある中で、あのような町があることが驚きだった。実際に町を歩いた時、人が急に減った感じがあって、やはり実習でなければなかなか入りにくいところだと感じた。ことぶき協働スペースは、住民が少ないからこそ、それぞれと密にコミュニケーションを取って、地域活性化を図っていることがわかった。一人一人の得意なこと、いいところを活かして町のためになるようフォローしていた。しかし、あのようなコミュニティにそもそも来ない人、来ることができない人に対する支援が難しいことなど、課題も多い施設であると感じた。ホステルビレッジは、寿町の課題をうまく利用したビジネスをしていると感じた。空き部屋を活かして宿にして売り出すことで、空き部屋の再利用と、町に人を呼び込み町のイメージを変えてもらうという効果があると思う。ビジネスと町の活発化を上手なバランスでやっていた。横浜というと、観覧車やランドマークタワーなど、みなとみらい周辺の栄えた町のイメージが強いが、そうではない場所にも目を向けるいい機会になった。横浜に住んでいる私ですら、横浜のことをよく知らないでいる。横浜のいろんな面をもっと知りたいし、知ってもらいたいと思った。(人科1年 N.W)



夢パまつり実習

開催日時 : 2023年7月22日(土)、23日(日)
 場 所 : 川崎市子ども夢パーク
 参加人数 : 19名 (法学部5名・経済学部3名・人間科学部10名・国際日本学部1名)
 担当教員 : 西野博之 非常勤講師

地域デザイン演習Ⅱ(担当教員:西野博之非常勤講師)履修者19名が、川崎市子ども夢パークでの「夢パおたんじょう日まつり」に運営参加し、実習を行いました。学生たちは、この実習を迎えるまでに、西野博之先生から「夢パーク」の意義や役割を学び、満を持して当日を迎えました。



目 的

プレーパーク(冒険遊び場)の運営現場での実習を通し、多様な他者との出会い、リアルな体験活動を行うことによって、困難な課題に向き合える実践力を育みます。様々な背景を抱える子どもたちとの直接的な関わりを通じて、子どもの気持ちの受け止め方を学び、子どもが発する「試し行動」に、どのように向き合い、コミュニケーションを図っていけるようになるかを学びます。

場 所

「川崎市子ども夢パーク」
 〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延5丁目30-1
<https://www.yumepark.net/>

日 程

2023年 7月22日(土)8:45~18:00
 7月23日(日)8:45~18:00

当日の様子

1日目は、石を拾ったり、木材を拾ったりと、子どもたちが安全に遊べるように、翌日のお祭りのための準備を行いました。石や木材は、拾っても拾っても、拾いきれないほどでした。そのほかにも、ドラム缶風呂用の薪割りやテントの設営などを行いました。

2日目は、夢パークの20周年をお祝いするお祭りの当日です。学生は、受付、駐輪場、ドラム缶風呂など、それぞれのグループに分かれて、運営を手伝いました。手伝いの合間には、子どもたちやスタッフ、他の学生とふれあい、本気の遊びを体験しました。炎天下の中、誰一人、体調を崩すことなく、二日間の実習を終了することができました。

自由に創造的な遊びを探求する夢パークは、遊びの聖地です。本気で遊ぶ子どもたちやスタッフを目の当たりにし、その中に飛び込んでいくことで得られた経験は、とても貴重なものとなりました！



参加学生のコメント

〇2 日間の実習を通し、夢パークのスタッフの方の温かさをまず感じました。だれも怒る人やピリピリしている人がおらず、みんなが心に余裕をもって仕事をしていた気がします。そういったことが子供たちにも自然と伝わり、楽しい雰囲気になるのだと思います。私自身、土曜にふと疲れた瞬間に子供に嫌な顔していると指摘されたことがありました。社会教育施設等で働く際は、そういった感情を極力見せないようにするのも、場の雰囲気を作るために必要だと実感しています。授業を通してですが、こういったことを経験できてよかったです。(経済学科 2 年 S.M)



〇今回の実習を通して自分の中で得られた大きなものは二つある。

一つ目は、とにかく仲間と仲を深めることができたということである。自分本位となってしまうかもしれないが、それこそが実習を心の底から楽しむことができた大きな理由であると感じたからだ。今回をきっかけにして、これからも付き合いしていく仲間ができたと思う。

二つ目は、この夢パ祭りの中でしっかりと役割を担えたという経験である。少し抽象的ではあるが、火を焚いたドラム缶風呂であったり、前日に作った、水を使って遊べるタコのオブジェで遊んでいる子供を見たり、泥遊びの中で自分を気に入ってくれて遊びまくったりというようにして、微々たる力だったかもしれないが、自分がかかわったことで子供たちが楽しんでくれたということが非常に自分自身にとっても嬉しいものだった。

間違いなく今回の経験は、貴重なものでなかなかできるものではない。今回の経験をどう生かせ

るかなどはまだわからないが、自分の人生の中で一つ大切な瞬間ができた。(経済学科 2 年 T.E)



〇私は今まで人と仲良くなりたいと思っていてもうまくいかないことがあり、ほかの人と比べて落ち込むことが度々ありました。しかし、今回の実習で職員の方や遊びに来ている子ども、一緒に実習に来た仲間と話すうちに、自分が今まで人の話を聞く前提で、自分の話をして知ってもらおうという積極性に欠けていたことに気が付きました。

自己主張をしすぎると協調性に欠け相手から距離を置かれてしまうこともあります。大前提として人と仲良くなるにはまず自分から心を開かなければならないということに今まで気づかず、この実習は自分が人のかかわり方を見直すきっかけになりました。また、運営のお手伝いをしていく中で、スタッフの方々が本当に幅広く業務にかかわってくださっていることを知りました。しかし裏での準備の大変さを決して表に出さず、笑顔を絶やさず子供と接しており、「相手を楽しませるにはまず自分から」ということを改めて学びました。

実習に行く前は「虫嫌い、夏嫌い、泥なんてもってのほかだけど大丈夫だろうか」と不安でしたが、必死に動いていると木陰の風や泥が気持ちよく感じました。これは自然と触れ合わなければわからなかったことであり、子供のころの自然と触れ合うことで感じた楽しさを思い出すことができました。

今回の実習で目標にしていた、子どもと大人両方の視点で参加するということは今の自分には何ができるのかを考えるきっかけにもなりました。この実習で一番学んだ「積極性」という部分を次のステップでの課題にし、地域と関わるための力にしていきたいと思います。(人間科学科 2 年 T.Y)

〈MMC:地域デザイン演習Ⅱ(履修目安学年 2年)〉 こどもゆめ横丁実習

開催日時 : 2023年11月4日(土)、5日(日)
場 所 : 川崎市子ども夢パーク
参加人数 : 11名(国際日本学部11名)
担当教員 : 西野博之 非常勤講師

地域デザイン演習Ⅱ(担当教員:西野博之非常勤講師)
履修者11名が、川崎市子ども夢パークでの「こどもゆめ横丁」に運営参加し、実習を行いました。学生たちは、この実習を迎えるまでに、西野博之先生から「夢パーク」の意義や役割を学び、満を持して当日を迎えました。



目 的

プレーパーク(冒険遊び場)の運営現場での実習を通し、多様な他者との出会い、リアルな体験活動を行うことによって、困難な課題に向き合える実践力を育みます。様々な背景を抱える子どもたちとの直接的な関わりを通じて、子どもの気持ちの受け止め方を学び、子どもが発する「試し行動」に、どのように向き合い、コミュニケーションを図っていけるようにするかを学びます。

場 所

「川崎市子ども夢パーク」
〒213-0033 神奈川県川崎市高津区下作延5丁目30-1
<https://www.yumepark.net/>

日 程

2023年 11月4日(土)10:00~17:00
11月5日(日) 8:45~18:00

当日の様子

「こどもゆめ横丁」とは、子どもたち自身が、自分たちで出店内容を一から考え、工夫してお店をつくり、そしてお客さんを相手に本物のお金を使って商売をするというイベントです。子どもたちの自主性を重んじ、大人は手や口を出さないことがルールとなっています。

11月4日(土)は、翌日に控えた「こどもゆめ横丁」の前日準備を行いました。子どもたちが安全に作業を行えるように、拾っても拾いきれないほどの石やゴミを拾い集めたり、次の日の装飾のためにツタをとったりしました。



意外に大変だったツタ取り！

5日(日)は、いよいよ「こどもゆめ横丁」の本番です。学生たちは受付係、駐車場係、バイトセンター係の3班に分かれ、それぞれのシフトに沿って、実習を行いました。フリーの時間は、横丁で買い物をしたり、プレイパークにいる子どもたちと一緒に遊んだりしながら、子どもたちと触れ合いました。閉店後は、子どもたち自身で売上の計算をした後、大人も手伝って、一気にお店を解体しました。準備から片づけまで、子どもたちが本気で頑張る姿を見て、様々なことを学んだ二日間でした。



ゆめ横丁全体風景
今年は50店舗に迫る店舗数でした！

参加学生のコメント

○手が空いていた時に、スタッフの方に「両替所の壁に絵描いてもらえる？」と頼まれました。私は絵を描くのが苦手なので、即答できませんでした。自信はなかったのですが、友達がやってみようと言ってくれたので、やってみることにしました。しかし、台無しにしちゃいそうでなかなか書き始められず、書きはじめても「こんなんでもいいかな」と連呼していました。しかしその時に、ある子がきて「自分がいいと思えばいい とりあえずやってみる」と言ってくれました。とてもハッとさせられました。芯の強さ、素直さを感じたと同時に失敗をしていいところなのだなど実感しました。その子の言葉のおかげで下手でも、やってみたいことはやってみようと思い、たくさん描いてみました。上手ではなかったですが、普段はみんなで絵を描くなどといった美術関連のことをするときは、常に心に引っ掛かりがありなかなか楽しめないのですが、あの子の一言で楽しむことができました。自分がもうやったことは自分がいいと思ってやっていることが多いので、誰かの評価に捉われず自分がいいと思うことをやることの大切さをその子の「自分がいいと思えばいい とりあえずやってみる」という言葉のおかげで感じることができました。(国際文化交流学科 2年 Y.M)



○今回の実習は子供たちが一から夢横丁を作り上げ運営している様子を見るという貴重な体験をすることができた。最初は子供と接した経験があまりないため不安が大きかったが、子供たちの生き生きとした表情や笑顔、無邪気な姿を見て関わっていくうちに不安がなくなっていった。子供たちは私たちが思っているよりも考える力や子供にしかできない発想力があることを実感できた。また夢横丁を終えた後の達成感溢れる表情が印象に残っている。このような何かをやり遂げたという経験は子供た

ちが大人になった時に大いに活かすことができるのではないかと考えた。現場を間近で見たことでスタッフの方々の子供たちとの接し方や社会教育者としてのイベント運営方法などから多くのことを学ぶことができたと感じた。(歴史民俗学科 2年 T.H)

○私が育ってきた環境は怪我をしそうな場面



の時は大人に止められてきた環境であったり、やりたいことができない環境の中であった。しかし、夢パークの中では、自由に木登りする子供がいたり、火のそばで楽しそうに話している子供がいたりして作業している中でそのような光景を目にして、すごく不思議な場所にいるような気持ちになった。実習中に実際に子どもが倉庫のような高いところから降りようとしていて、落ちたら怪我を負ってしまいそうな場面を目撃した時があり、私は危ないと止めてしまいそうになってしまった。しかしその気持ちを抑え、何かあった時にすぐ対応できるようにしていたら、子供同士で助け合って近くにあったものを重ねて階段のようなものにして安全に高いところから降りていた。子供の考えの柔軟性や対応力の高さに私は衝撃を受けた。大人に、事故を起こす前に止められていたら、私が見たような柔軟な思考力はつきにくいだろう。私はそこで夢パークの存在の大きさや意味を改めて学ぶことができた。(歴史民俗学科 2年 S.R)



〈MMC:地域デザイン演習Ⅲ(履修目安学年 2年)〉

シブヤ大学とのコラボ授業

開催日時 : 2023年12月10日(日)、16日(土)

場 所 : 恵比寿社会教育館、上原社会教育館、comecafe Osamu bar

参加人数 : 21名 (国際日本学部11名・経営学部1名・法学部1名・経済学部3名
人間科学部4名・人間科学研究科1名)

担当教員 : 左京泰明 非常勤講師

地域デザイン演習Ⅲ(担当教員:左京泰明 非常勤講師)履修者21名の実習として、特定非営利活動法人シブヤ大学との協働による市民講座を2日間にわたり開催しました。

目 的

- ① 特定の地域で活動する市民大学の現場を経験する。
- ② 実際に特定の学習者をターゲットとした講座の企画から運営のPDCAサイクルを経験する。
- ③ 市民大学に関わる多様な主体や市民との関わりを経験する。

当日までの主な経過

- ① 講師選定。その人を先生にした時に、その人からどんなことを学んでみたいか考える。
- ② 講師への依頼文の作成し、事前打ち合わせを行う。
- ③ シブヤ大学ホームページに掲載する広報文を作成する。
- ④ 当日の運営を行う。



何を知りたいのかを考えることから
始まります

連携先

特定非営利活動法人シブヤ大学 <https://www.shibuya-univ.net/>

実習概要

○12月10日(日) 10:00-12:00 (開催場所:恵比寿社会教育館)

テーマ:「誰も」が「自分らしく」生きていくために

○12月16日(土) 09:00-11:00 (開催場所:comecafe Osamu bar)

テーマ:渋谷で暮らしの井戸端会議

○12月16日(土) 10:00-12:00 (開催場所:上原社会教育館)

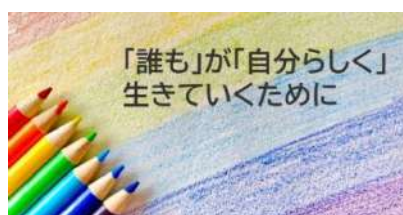
テーマ:DEEP THINKING～終わりなき思考に挑戦しよう～

○12月16日(土) 14:00-16:00 (開催場所:上原社会教育館)

テーマ:【ブックイベント選書会】悩む人と本好きさんとのアナログエンカウンター

○12月16日(土) 14:00-15:30 (オンライン)

テーマ:【オンライン授業】デジタルが気候変動の原因に?!「脱炭素×デジタル」を考えてみよう!



渋谷で暮らしの井戸端会議





「誰も」が「自分らしく」生きていくために 講師：進藤夏葉氏

初めて社会教育をする場での授業作成であったため、どのように準備して良いのか分からずとても苦戦しました。講師の方と zoom や対面でのミーティングを通して、授業の目的は何なのかを考えていながら授業企画をしていきました。その期間に、実際にシブヤ大学の授業に参加して、普段コミュニケーションを取ることもない世代の人たちと出会える場、考えを共有できる場の面白さを感じました。そこから自分たちでも、このような実りのある授業を作りたいと思い、当日まで作業を進めていくことができました。進藤さんの講義では、進藤さんが

活動していく上で掲げている目的「誰もが安心してすごせる学校・社会・日常づくりのために」を中心にお話をいただきました。そこから、多様性をきっかけに自分にできることは何かを考えていくという講義内容となりました。講義後には【①もやもやしちゃったこと・させちゃったこと】【②自分にできることってなんだろう？】をテーマにワークを行いました。このワークを通じ、自分が勝手に「当たり前」と考えていた思い込みが実は誰かを傷つける凶器になってしまう危ない考えであったことに気づくことができました。講座全体を通して、価値観が変わり、世界が広がるような…貴重な体験をさせていただきました。



デジタルが気候変動の原因に?!「脱炭素×デジタル」を考えてみよう!

講師：我有(がう)才怜氏

この講座では、脱炭素と聞くと「理系の分野の話」で「自分たちにはどうしようもできない難しい問題」という印象を持つ人達が少しでも脱炭素を身近に感じてもらうことを目的とし、開催しました。

脱炭素 DX 研究所の所長をされている我有(がう)才怜さんを講師にお招きして、脱炭素や昨今の気候変動に関する基本的な講義とデジタルを絡めた発展的

な講義の二つについてお話していただいた後、簡単なワークショップを行いました。お人柄の素敵な我有さんと共に、様々なバックグラウンドを持つ方と共にお話できて、より一層脱炭素についての興味が湧きました。私たち一人ひとりができる「脱炭素」に向けた取り組みは本当に小さいものですが、「脱炭素」をもっと日常にしていけるためにも、環境問題に関する講座を開講できてよかったです。



DEEP THINKING～終わりに思考に挑戦しよう～ 講師：矢島祐作氏

この講座では、皆さんが日々抱く様々な疑問に対して、答えを見つけるのではなく「モヤモヤしたまま帰ってもらう」ことをゴールとし、参加者の皆さんにディスカッションをしていただきました。講座の最後には矢島さんから全体の講評をいただきました。矢島さん自身も楽しく、勉強になったとおっしゃっており、「自分たちの当たり前は当たり前じゃない」とし、講座を締めました。

私は今回、「答えを見つけない」という新しいディスカッションの形に出会いました。1つの正解にたどり着こうとするのではなく、モヤモヤと一緒に生きていくことが私たちの生活を豊かにするのだと思います。



渋谷で暮らしの井戸端会議 講師：安西仁美氏 西尾治氏

学生の私たちにとって渋谷といえば、大都会で人が多いといったイメージが強かったため、「そんな渋谷で暮らすってどんな感じだろう？」という素朴な疑問からこの授業は生まれました。今回、長年渋谷区に住みながら、ゆるやかに食と生活の関係を見つめている安西さんからお話をさせていただきました。また、味噌作りは、体と心に優しい料理を提供するカフェのオーナーの治さんに教えていただきました。お二人の先生からのお話が初めて聞くことばかりでとても面白く、息ぴったりな会話が充実した時間へと繋がりました。



悩む人と本好きさんとのアナログエンカウンター 講師：村松一伸氏

選書会とは、ある悩みを解決する本をみんなで持ち寄って紹介をし合い、本の力によってその悩みを解決するお手伝いをする会です。今回は学生チームの一人が抱えている悩みを提示し、その悩みに寄り添った本を参加者の皆さんに持ってきていただきました。《ブックセラピスト》となった参加者の皆さんの過去や本を紹介するにあたっての背景などの説明を受けた本たちは、一つひとつに他の本と被らない個性があり、それが伝えたいものも異なっていました。また、ブックセラピストが込めた思いや感じて欲しいことが、登壇

した、悩みを持つ人だけでなく、ほかのセラピストの過去や身近な人に当てはめたりして、自身が処方される側の立場になって紹介を聞くこともでき、柔らかな雰囲気ですべて無事終了することができました。

〈YC:地域デザイン演習Ⅳ(履修目安学年 3年)〉 かながわユースフォーラム2023

開催日時 : 2023年7月1日(土) 13:00~16:30
 場 所 : 神奈川大学横浜キャンパス 3号館3階
 参加人数 : 運営23名(法学部4名・経済学部2名・人間科学部13名・大人4名)
 参加者331名 計354名
 担当教員 : 齊藤ゆか 人間科学部教授、寺嶋正尚 経済学部教授

コンセプト

「人の和」は、対立のない和やかな協力関係を意味します。コロナ禍で薄れた人と人とのつながりを、新たな視点で再構築し、「人の和」を学生の力でつなげたい、という学生の想いを掲げました。

～人の『和』をつなげよう～



趣旨と経緯

かながわユースフォーラムとは、若者参画型交流事業のイベントです。

この事業は、主に大学生(高校生含む)が二つの事業運営の経験を行います。一つ目は、地域社会への取り組みです。これは、課題の設定、テーマ設定、内容の編成、実行、成果の検証の一連のプロセスを行います。二つ目は、当日事業の運営と評価です。当日のイベントをどのように集客し、参加者を動かすのか、講座を運営するのかを試みる。運営過程において、大学と地域、大学と高校の連携等、多様な横のつながりを創ります。

これら事業を介して、地域社会の課題に貢献できる実践力を培います。また、これらはSDGsの目標達成にも通じるものです。

これまで、2019年に立ち上げ、第1回は2020年、第2回は2021年、第3回は2022年に実施しました。2020～2022年度まで横浜市神奈川区の地域支援補助金支援事業の助成を受けてきました。ただ、2020年度及び2021年度はコロナ禍にてオンラインでの実施後、小規模な運営を行ってきました。2022年度は初めて対面実施を行い、200名程度の集客を得ました。

2023年は『人の和』をつなげよう」をテーマとした事業を展開しました。主たる企画運営者は、神奈川大学社会教育課程の学生に加え、教職課程、ゼミナール及びサークル活動等、地域の課題に目を向けるユースが中心となる事業です。

実施主体

社会教育課程「地域デザイン演習Ⅳ」履修者
 (かながわユースフォーラム実行委員)

○学生代表 : 中田千雅(人間科学部3年)
 副代表 : 山田優菜(人間科学部3年)
 吉沼美優(人間科学部3年)
 山田陽斗(法学部3年)

協力

【官】 横浜市 神奈川区 小田原市
 【民】 神奈川区社会福祉協議会
 (神奈川区ボランティアセンター)
 六角橋地域ケアプラザ 斎藤分町南部町内会
 NPO法人グッド
 神奈川区地域子育て支援拠点かなーちえ
 日本ヒューマンライブラリー協会
 【学】 横浜市立東高等学校 近隣中学校
 【産】 神奈川ロータリークラブ
 六角橋商店街連合会

プログラム 1 【全大会】

6つの分科会とパネル展示に分かれる前のイントロダクションを行うとともに、参加者がそれぞれ興味ある分科会の「旅」から戻ったあとのリフレクションを共有しました。



プログラム 2 【分科会】

○「町内会×食×防災」

フォーラム実行委員の学生が、斎藤分町南部町内会さんで行ったモスキートバスターズと町内の危険箇所チェックについて発表を行い、3日間を生き抜くための非常食を話し合い、防災への理解を深めてもらいました。

生き抜くために本気で話し合います



○「高齢者×地域×コミュニティ」

フォーラム実行委員の学生が、地域の方と交流することができ地域の憩いの場・コミュニティカフェについて発表し、またコミュカフェ参加者の方からのお話を聞くことのできる、ヒューマンライブラリーを行いました。



○「大学生×子どもたちのコミュニティ」

教職課程を履修している神大生が、大学周辺の子どもたちを対象とした学習支援や、子どもたちと一緒に成長する場所について発表を行いました。



○「高齢者×オレオレ詐欺」

経済学部寺嶋正尚ゼミ生が、オレオレ詐欺の実態についての発表を行い、どのような対策ができるか参加者の皆さんに考えてもらいました。



○「ジェンダー×スキンケア」(荻野研究室)

人間科学部の荻野佳代子ゼミ生が、ジェンダーとスキンケアに関する発表を行い、多様性やジェンダーについて参加者の皆さんに考えてもらいました。



○「海外ボランティア×大学生」

ボランティア論の講師である、磯田先生が代表を務めている NPO 法人 Good!のスタッフが、海外ボランティアについての発表を行いました。



高校生や大学生が実践してきたテーマや地域のボランティアについてパネル展示を行いました。



○参加テーマ(カッコ内は協力団体)

- ★「高校生が企業とコラボ」(横浜市立東高等学校)
- ★「ボランティアに行ってみよう」
(神奈川県社会福祉協議会、かなーちえ)
- ★「廃棄ミカンの活用」(社会教育課程履修者有志)
- ★「食と農の学び」(体験型研修食育わくわく履修者)
- ★「子ども、スポーツ、地域貢献」
「ボランティアに行ってみよう」(齊藤ゆかゼミ)
- ★「大学生が考えるボランティア」
(市川享子講師 ボランティア学習論履修者)
- ★「自分らしくいられる子どもの遊び場」
(川崎市子ども夢パーク)
- ★ボランティア相談コーナー
(神奈川大学ボランティア支援室)



○パネル展示感想

- ・自分の知らないところで高校生が企業と一緒に活動していたり、色々な活動を行っていることが知れた。これを見て、私も何かできないかと感じ、SDGsについて調べてみようと思った。
- ・ボランティアは、自然、環境のためのものが多いと思っていたけど、手話など使って障がい者のためのボランティアもあって新鮮でした。気軽にボランティアに参加できると思うので、やってみようと思います。

参加者の声

【学生代表 中田千雅(人間科学科 3年)】



今回で4回目のかながわユースフォーラム、「人の和をつなぐ」をテーマに取り組みを行ってきました。地域の方々に加え、先生・先輩方の多くのご協力により無事に開催することができました。

約300人と多くの方々にご参加頂き、年々発展を続けています。地域活動に寄与できる活動として、これからも広げていければと思います。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！



【参加者アンケートより】

- イベントの宣伝を大学全体で行うと参加者の数も増え、より楽しいものとなるのでは？
- 違う学年の参加者と話し、自分とは異なる考えを持っていると感じた。新しい発見が多く、今回参加しなかった人にも是非参加してみたい。
- これまでボランティアにはあまり参加したことはなかったが、今後取り組もうと思った。

参加者概要

学生運営スタッフ	19人
運営大人スタッフ	4人
学生ボランティア	5人
卒業生ボランティア	4人
参画団体(5団体)	58人
参加者	264人
全参加人数	354人

実践報告2023

〈MMC:社会教育演習(履修目安学年:3年)〉

小田原フィールドワーク

開催日時: 2023年6月24日(土) 10:00~16:30

場 所: 小田原市内

参加人数: 履修者8名(経営学部2名・外国語学部1名・国際日本学部5名)

担当教員: 加藤憲一 非常勤講師

目 的

社会教育課程を履修する学生たちが、地方都市の現場においてどのような可能性と課題があるか、そして社会教育の実践により地域社会をいかに持続可能なものにしていけるかについて、小田原市で実際に行われている活動の様子から学びます。具体的には、それらを通じ、社会教育の実践が人づくり・まちづくりに果たしうる可能性について理解を深め、卒業後の社会教育士としての活躍に向けた「実習」の一助となることを目的としています。



場 所

おだわら市民交流センターUMECO 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町1-1-27

小田原市生涯学習センターけやき 〒250-0042 小田原市荻窪300

日 程

○おだわら市民交流センターUMECO 訪問

○商業施設 ミナカ小田原見学

○小田原市生涯学習センターけやき 訪問

・市生涯学習の取り組みについて

○おだわら市民学校 おだわら学講座受講

・「地域活動の意義と現状」

一般社団法人とちぎ市民協働研究会 廣瀬隆人氏

○市民学校第6期生のグループワーク



当日の様子

午前中は、社会教育および生涯学習の活動拠点における諸団体の取り組みと拠点運営について、レクチャーを受けました。学生からは、企業との連携についての展望などの質問が出ました。午後は、小田原市生涯学習センターけやきに移動し、課題解決の担い手育成の取り組みである「おだわら市民学校」の講座傍聴とグループワークでのファシリテート体験を行いました。

連携・協力

○おだわら市民交流センターUMECO 施設運営者「市民活動を応援する会」理事長 興津正治氏

施設管理者「小田原市事業協会」センター長 柏木敏幸氏

○小田原市生涯学習センターけやき 生涯学習課副課長 遠藤典子氏

参加学生のコメント

○今日のフィールドスタディを通して印象に残ったことは「つながり」である。午前中の UMECO の話の中でも、コンセプトが「つながり」であるということを知った。その UMECO の中で実際に、様々なつながりが生まれ地域が活発に動いているということが分かった。また、おだわら市民学校の講義でも印象に残ったことも人々との「つながり」であった。希薄になっていく「つながり」をどのようにつくっていくのか考えることが必要だと感じた。そして、ファシリテーターとしての経験も貴重なものであった。上手いかなと思うことが多く、戸惑うこともあったが、グループの方に助けていただいて、意見をまとめることができた。時間の管理ややりたいことの説明力、対応力などを身につけていきたいと感じる経験であったと思う。(国際日本3年 K.A)



○今回の実習で訪れた 2 ヶ所の社会教育施設は、どちらも昨年の社会教育課程の実習で訪れた場所であり、昨年と比較することで新たな発見があった。中でも、おだわら市民交流センター UMECO で質問させていただいた、企業との共同支援への展望についてのお話は、今後 UMECO へ訪れることがあればまたお話を聞きたい。また、おだわら市民学校の講義での、「機を待つ」ことについての話は、社会教育を進める上での主体性に関するとても興味深い実例だった。そして社会教育施設の見学のほか、小田原の食や文化に触れることができた、とても有意義な実習だった。

(国際日本3年 S.S)

○私は今回の実習を通して学んだこと、印象に残ったことなどが 3 点ある。



意見をまとめる大変さを知りました

1 点目は UMECO についてだ。つながりを生み出すきっかけの場となる、UMECO が駅の近くにあるため、多くの人々が利用しやすいのではないかと考えた。また、活動している人々がとても生き生きしていたのが印象的だった。

2 点目は小田原の利便性だ。これまで小田原は田舎で何もないイメージだった。しかし実際に足を運んでみると東京方面にも電車一本で出ることができ、駅周辺は商業施設が充実しており、とても住みやすい街だと思った。

3 点目は社会教育の固定概念を大きく覆されたことだ。社会教育＝マニュアル第一のような学びをこれまで受けて来た。しかし、本日の廣瀬隆人さんの講義でその固定概念が大きく覆された。1 番大切なことはマニュアルではないと強く感じた。先日福島遠征に部活で行った際も、温泉で地元のおばさんに話しかけられた。「どこから来たんだっぺ?」「野球が!」とたわいもない会話をした。このような小さな交流がきっかけで社会教育が生まれるんだと思った。(経営3年 S.H)



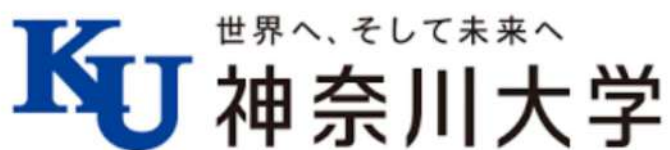
■小田原市職員より

社会教育課程で学ぶ学生の皆さんに「おだわら市民学校」を見学いただくのは、昨年度に続き2回目となるので、今回は実際に皆さんにファシリテーターとして、講座のふり返りのグループワークに参加していただきました。

限られた短い時間の中で、市民学校の受講生とは初対面にも関わらず、それぞれが工夫され、時間内にまとめていこうと真摯に取り組んでいただいたおかげで、どのグループも受講生の意見を十分に反映した発表になったと思います。

これから社会教育実習等も控えているとお伺いしましたが、今回の経験が今後の皆さんの実践への一助となることを願っております。

(小田原市文化生涯学習課 遠藤典子氏)



2024年2月発行

発行：神奈川大学社会教育課程
横浜市神奈川区六角橋3-27-1

編集：神奈川大学社会教育課程 齊藤ゆか(人間科学部 教授)
地域コーディネーター 益田麻衣子・直井友樹

連絡先：神奈川大学社会教育課程 045-481-5661(代)

※本書の無断転載を禁じます。